５、歴史博物館編

　①「博物館入り口」

 この場所には、江戸時代赤穂城のお蔵屋敷がありましたので、蔵のデザインで、赤穂市立歴史博物館になっています。平成元年（１９８９）に建設されました。

 館内は、１階に「赤穂の塩」、２階に「赤穂の城と城下町」「赤穂義士」「旧赤穂上水道」を展示しています。

　②「岩塩」

 これはポーランドの岩塩です。国内産の塩は年間約１４０万トンで、日本の塩消費量約１０００万トンの約１５％です。８５％は輸入しています。

 赤穂では、国内産の塩の６分の１、年間２３万トンを生産しています。今は昔のように広い塩田は必要なく、工場で海水をポンプで汲み上げ、イオン交換膜により、濃い塩水（鹹水＜かんすい＞）を作り、それを煮詰めて、塩を作っています。

 ③「塩廻船（しおかいせん）」

 こちらは、塩廻船の３分の１の模型です。実物は３倍の大きさです。赤穂塩田（浅野時代２５０ha、森時代４００ha）で作った塩を約５ｋｍ東の坂越（さこし）港から全国の港へ運搬した船です。千石船で、塩を１６６トン積みます。

 ④「古式入り浜」「古式汲み潮浜」の模型

 入り浜塩田は、満潮面より低い地盤に塩田を作り、満潮時に海水を引き入れて濃い塩水（鹹水＜かんすい＞）を作ります。

 汲み潮浜塩田は、満潮面より高い地盤に塩田を作り、海水を汲み揚げて塩田にまき、濃い塩水（鹹水＜かんすい＞）を作ります。 海水の塩分濃度は３％で、鹹水（かんすい）は１８％です。赤穂の入り浜塩田は江戸時代の初め（１６００年頃）から昭和３０年頃まで使用され、その後流下式になり、昭和４６年（１９７１）に塩田は廃止になりました。

 ⑤「塩田で使用した道具類」

 こちらは、塩田作業で使用された道具類です。大変珍しいもので、これらの内２３７点は国指定重要有形民俗文化財です。大きなものは、今の私たちの体力では使えないと思います。昔の人は力が強かったのでしょう。元気な浜男は、１日４食、１回に５合食べたと言います。

 ⑥「赤穂の塩」のビデオ

 こちらは、赤穂の塩がどのようにしてできるかなどのビデオで、わかりやすく５分間の上映です。

 ⑦「入り浜塩田模型」

 こちらは、入り浜塩田の模型です。この模型の実物は、千種川の東の東浜塩田跡地に出来た兵庫県立赤穂海浜公園（昭和６２年、１９８７開園、面積７２ha）の中にある「塩の国」に復元して、観光的に製塩作業をしています。

 ⑧「上荷（うわに）船」

 こちらは上荷船といって、塩田の中の運河のような水路（水尾＜みお＞）を行き来していました。塩田で使用する燃料の石炭や資材を運び、塩を運び出したりする船で、３分の１の模型です。

 塩や石炭を２５石（1000貫、３．７５トン）積んで、沖の船と釜屋との間を往復する艀（はしけ）です。

 ⑨「赤穂緞通（だんつう）」

 こちらの壁に飾ってあるものは、赤穂緞通と言い、木綿を原料にした敷物です。佐賀県の鍋島、大阪府の堺と共に日本３大緞通のひとつです。大きさは１畳敷きがほとんどです。

 このような織機でおります。明治３年中村（現中広）の児島なかが考案しました。明治から昭和初期に盛んでした。すべて手作業ですので、大量生産の現在においては産業としては成り立っていません。

 しかし、無くしてしまうのは惜しいと、現在約２０名の織り手が伝統工芸の保存継承を目指して活動しています。

 ⑩２階「赤穂城完成時の模型」

 こちらの模型は、赤穂へ浅野家が正保２年（１６４５）に来て、１６４８年から１３年かけて１６６１年に完成した時の赤穂城の姿です。皆さんが居る歴史博物館はここになります。城の東側は千種川、南と西の１部は瀬戸内海、海に突き出したような海岸平城（ひらじろ）でした。

 その後、千種川の三角洲が発達し、明治２５年（１８９２）の千種川の大水害の後、千種川を約２００ｍ東へ移動したりして今は、お城から約２ｋｍまで陸地になっています。

 ここが大手門で、城の北の端になります。

 ここは、大石内蔵助の屋敷で、三の丸には、身分の高い武士の屋敷が２０軒ありました。名札が貼ってあります。

 ここが赤穂城の本丸で、本丸のまわりを二の丸が取り囲んでいます。そして、北と西に三の丸を設けています。変形輪郭式（へんけいりんかくしき）と言います。

　⑪「忠臣蔵シアター」（見学に余裕のある場合、史実赤穂義士事件、上映８分）

こちらでは、刃傷（にんじょう）、吉良邸討ち入り、義士切腹の約２年間の元禄赤穂事件の史実を、わかりやすく８分間にまとめています。

 ⑫「吉良邸平面図」

 こちらは、吉良邸の平面間取り図です。吉良邸の位置は、大相撲の両国国技館（りょうごくこくぎかん）の南、約４００ｍのところです。

 吉良邸の広さは約２５００坪（８４００㎡）で、１４０ｍ×６０ｍの大きさです。東（表門）西（裏門）南の三方は道路に接し、塀の代わりに４２０坪の長屋が取り囲んでいました。

 北側は、旗本土屋邸、旗本本多邸に接し、普通の塀です。屋敷は３８８坪（約１２００㎡）ありました。吉良上野介は隠居していたので、屋敷の裏門側で生活していました。

　⑬「４６士引き揚げ図」

 こちらは、寺坂吉右衛門を除く４６士の吉良邸から泉岳寺への引き揚げの経路図です。　右の上の方の赤い丸印が吉良邸で、赤い線は泉岳寺への引き揚げの経路で、当時の東京湾沿岸を南へ下りました。下の方の赤丸はJR品川駅近くの泉岳寺です。義士の歩いた距離は、約１１ｋｍで、午前６時に吉良邸を出発し、３時間歩いて、午前９時に泉岳寺へ着いています。

 ⑭「旧赤穂上水道」

 こちらの展示物は、日本三大旧上水道のひとつである旧赤穂上水道の土管や井戸枠などで、発掘調査や下水道工事の時などに掘り出されたものです。

 日本三大旧上水道は、江戸の神田上水、広島県の福山上水、そして赤穂のものです。

　この古い上水道は、浅野家の前の藩主池田家（池田家は１６００年から、但し赤穂一藩として独立したのは、１６１５年から）が１６１６年に造り、浅野家が拡張しました。 水の取り入れ口は、赤穂城から約７ｋｍ上流の千種川で、山裾に水路を掘り、城下町の北端まで導水し、城下町の中は、道路の下に３０ｃｍ位の土管を埋め込み、その土管から直径１０ｃｍ位の瓦管（かわらかん）などで、各家々の台所の土間に設けた井戸（汲み出し桝）へ給水していました。

 これで歴史博物館の説明を終わります。ありがとうございました。